

日本気象学会 第57回夏季大学

新しい気象学2023

2023年8月5日(土)10:00～15:15

6日(日)10:00～16:00

開催形態：オンライン開催

定員：最大200名 参加費用：2000円（郵便振替/クレジット決済等）

詳細：https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/summer_school

参加登録：<https://forms.gle/6TxdRk3bfQrAQbia6>

登録期限：7月31日（月）



近年、AI技術や最先端のスーパーコンピュータを用いた超高解像度シミュレーションが気象学の分野でも利用され、これまでにない革新的な研究が行われています。また、台風や豪雨を制御する技術開発も行われ、気象学は大きな転機を迎えています。現代の天気予報のさらなる精度向上や気候変動の課題解決において、このような技術が果たす役割や応用可能性について、8名の専門家が紹介します。気象学におけるAI技術やシミュレーション技術の最新動向や将来の展望に触れ、新たな知見を身につける機会となれば幸いです。

■ 講義プログラム

8月5日（土）10:00 – 15:15

10:00～10:05 開講の挨拶

10:05～11:05 大気科学におけるAIの利用方法

11:15～12:15 最先端のスーパーコンピュータを用いた天気予報研究

13:30～14:20 都市の建物と樹冠を解像した微気象シミュレーション技術の開発と社会実装

14:25～15:15 深層学習を利用したリアルタイム微気象予測への挑戦

8月6日（日）10:00 – 16:00 ©気象庁

10:00～11:00 Today's Earthによる全球から市町村規模までの洪水予測

11:05～12:10 海から季節の不順を予測する～季節予測の最前線～

13:20～14:20 より速く、より多く、より長く、より複雑に一気象・気候予測を支える
コンピュータとの共同作業

14:30～15:30 台風制御に向けて：ムーンショットでの取り組み

15:35～16:00 学習到達度試験

©JAMSTEC
Google Earth

©JAMSTEC

関山剛（気象研究所）

大塚成徳（理化学研究所）

松田景吾（海洋研究開発機構）

安田勇輝（東京工業大学）

芳村圭（東京大学）

土井威志（海洋研究開発機構）

八代尚（国立環境研究所）

森信人（京都大学）

主催：日本気象学会 教育と普及委員会 協賛：日本気象学会 計算科学研究連絡会

後援（予定）：気象庁、日本地学教育学会、気象業務支援センター、日本気象予報士会

問い合わせ先：教育と普及委員会（msj-ed_2023@metsoc.or.jp）